

モンゴル国経済の現状

2016. 10. 20

I. はじめに

本メモは、2016年10月13日モンゴル貿易投資フォーラムにおける講演内容¹に基づき、モンゴル国の経済状況についてまとめるものである。

II. モンゴル国における情勢

政治状況としては、まず、2016年6月29日に行われた国家大会議（国会）議員選挙において、モンゴル人民党が76議席のうち65議席を獲得し、絶対多数党となった。そして、2016年7月8日から30日にかけて、J. エルデネバト首相が新内閣を組織し、大蔵大臣としてB. チョイジルスレン氏が、モンゴル中央銀行総裁として、N. バヤルトサイハン氏が就任した。次いで、2016年9月9日には、国家大会議により、2016年の補正予算及び2017-2019年の財政見通し（政策文書）が決定された。また、2016年9月28日には、「経済安定化計画」の国家大会議提出が閣議決定されている。

III. モンゴル国における国際収支の状況

モンゴル国における近年の貿易収支の状況としては、2009年から悪化しており、2012年にはマイナス2,354,000,000ドルを記録したが、翌年から回復の兆しを見せ始め、2014年には黒字に、2016年7月には、709,000,000ドルの貿易黒字を記録している。

経常収支に目を向けると、同じく2009年から悪化し、2012年にはGDP比でマイナス約30パーセントにまで落ち込んだが、2013年から回復をはじめ、2016年には、GDP比でマイナス1パーセントにまで回復した。

次に、国際収支についてであるが、2013年には大きく落ち込み、マイナス1,867,000,000ドルを記録したが、2016年には大きく回復し、マイナス41,000,000ドルにまで回復している。

他方で、外国直接投資については、2011年から減少し始め、2016年にはGDP比が0パーセントを記録するなど、好ましい状況とは言えない。

¹ モンゴル銀行「モンゴル国経済の現状」2016年10月13日モンゴル投資フォーラム東京

IV. 持続可能な成長を達成するための総合政策措置

1. 概要

かかる状況に鑑み、モンゴル国政府は、中期的に持続可能な成長を達成するための総合政策措置として、経済安定化計画（ESP）を策定した。

この計画はまず、外国直接投資の大幅な増加、国内総生産の成長率の大幅な増加、財政赤字の削減、政府債務の削減である。

2. 大規模な開発案件

今後予定されている開発案件には、鉱業プロジェクトとして、オユートルゴイ地下鉱山の開発案件（投資総額 46 億ドル）、インフラプロジェクトとして、ボグドハン鉄道（投資総額 20 億ドル）、エネルギー案件として、第 5 発電所（投資総額 14 億ドル）をはじめとして、多数の案件がある。

3. 経済安定化計画（ESP）

経済安定化計画の骨子は、短期間で経済を安定化させること、中期的に持続可能な経済成長を達成すること、であり、その手段として、財政政策を債務持続可能性分析と関連付けること、国際収支赤字を削減するための金融政策を実施すること、外貨準備の増加、投資の増加と対外債務の解決を目標とした政策、鉱業以外のセクターを支援し、経済の多様化を促進すること、鉱業・インフラプロジェクトの実施を通じて経済成長を促進すること、持続的かつ包括的な成長を促すガバナンス・法令・制度の改革を実施することが挙げられている。

V. まとめ

現在モンゴル国は、大規模なプロジェクトやプログラムを実施し外貨準備の増加と経済成長を促進する（総額 226 億ドル）こと、持続可能性の確保を目的とした財政政策、国際収支赤字の削減のための金融政策、法令・ガバナンス・組織能力の改善を目標とした改革（金融・財政政策の独立性と国有会社のガバナンス）、経済を多様化し、鉱業以外のセクターを支援すること等により、持続可能で包括的な成長を目指しており、今後のさらなる発展が期待される。

以上